

経営比較分析表（令和6年度決算）

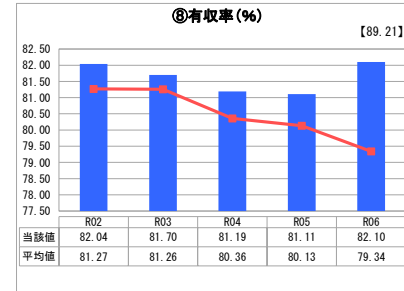
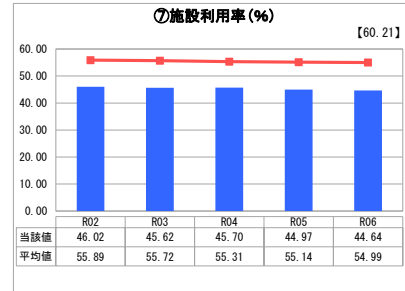
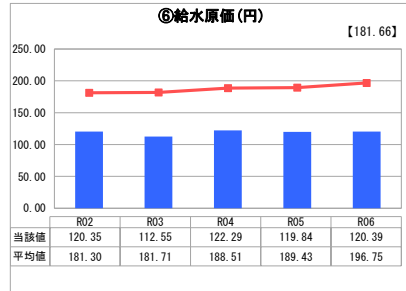
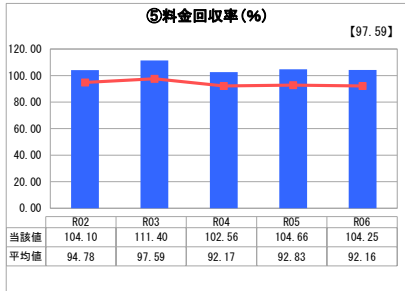
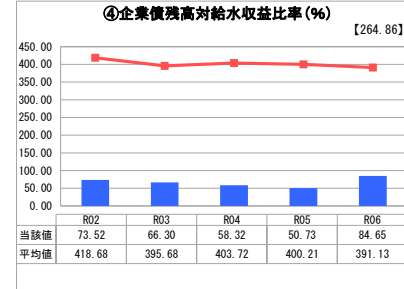
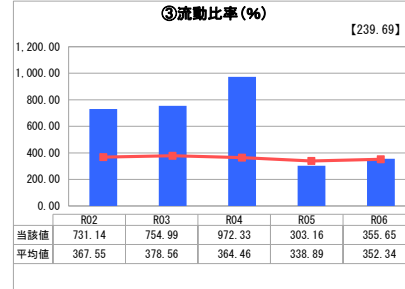
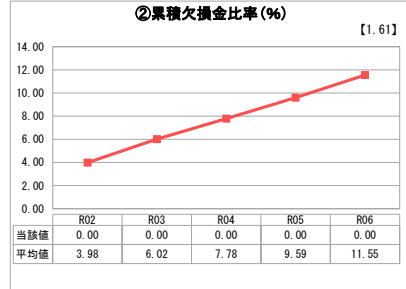
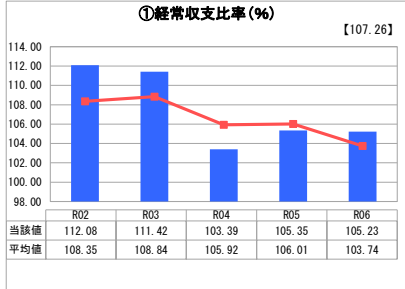
静岡県 大井上水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	87.55	94.62	2,514	

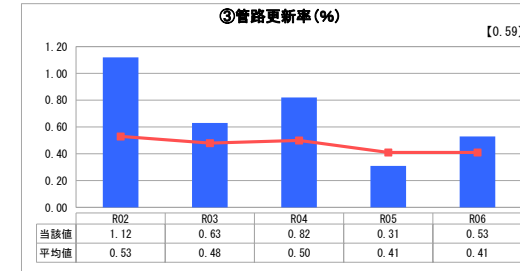
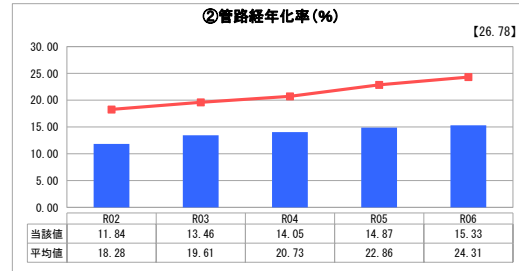
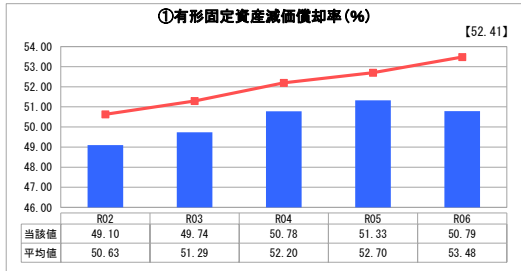
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
18,860	32.42	581.74

■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析稿

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率や料金回収率は100%を超えており、健全な経営が維持できていると言える。経常収支比率は、令和元年10月に実施した料金改定により改善したが、動力費等の急激な高騰により、令和4年度は大幅に悪化した。令和5、6年度は動力費の高騰が抑えられたことにより、改善した。

累積欠損比率は0%であり、累積欠損金は無い。流動比率は355.65%であり、短期的な債務に対する不安はない。すなわち、支払い能力は高い。

企業債残高対給水収益比率は低く、1年分の給水収益の半分程度である。給水原価は、類似団体と比べて低いが、前年度と比較して0.55円増額となっている。これは、動力費の変動が主な要因である。

施設利用率は、前年度と比較すると、微減である。

有収率は80%台を堅持している。これは、漏水が多発する地区の管路更新が終了しているものの、経年化は常に進むことから、効果的な老朽管更新に努めているためである。

経営の健全性、効率性を維持するため、基礎となる収益・費用構成の均衡を保つことや、資金管理、資金調達についても計画的に進めて行く。また、令和7年4月1日から平均10%の料金改定を実施し、引き続き、経営成績、財政状態及び将来事業計画に必要な資金確保を考慮し、取り組んでいく。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、平均を下回っていることから、更新額について資金収支のバランスを踏まえながら実施に努めている。

管路経年化率は、年々増加傾向にあるものの、法定耐用年数を経過した管路を計画的に更新していることにより、全国平均を下回っている。

管路更新率については、施設の更新に係る費用と管路更新費用との資金バランスを考慮していることから、更新率に増減が生じている。令和5年度の管路更新率は、配水池築造工事を行ったため、低くなったが、令和6年度は増加した。

更新計画で制定した管種別使用年数を基準に、現況を考慮し管路の更新を行っていくが、併せて資金計画を考慮し、更新計画を実施していく。

全体総括

類似団体平均と比べ、①経営状況は安定している（経常収支比率、累積欠損金比率、流動比率、企業債残高対給水収益比率等より）、②給水原価は安価であるが、各経営指標は比較的良好といえる（給水原価及び各グラフより）、③漏水対策、老朽管対策として管路更新を進めており（管路更新率より）、その結果、有収率は類似団体の平均を上回っているが、全国平均は下回っている。

有収率においては、配水管、給水管ともにビニル管にて漏水が多発していることから、ビニル管総延長が長いことが有収率低下の要因の1つと言える。

有収率向上の対策として、老朽施設更新に加え、漏水多発管路を優先的に更新するとともに、職員による漏水調査の実施を強化することにより、有収率の向上に努めていく。また、布設替管種についても検討を行い漏水減少に努める。